

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース/山本 準

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

学生が教員になれるよう、講義・演習・ゼミを通して教師としての実践力を高めるところに役立つような教育指導を行っていく。ゼミの大学院の学生には、修士論文の作成指導を行うとともに教員採用試験に向けての指導も行う。学部のゼミの学生に対しては卒業論文作成の指導をするとともに、教員採用試験のための面接や小論文への対策と指導を行う。

2. 点検・評価

教員養成大学であることを念頭に、ゼミ生に対し採用試験対策の面接の練習や、小論文指導を行い、学部ゼミ生1人が教員採用試験に合格した。大学院ゼミ生4人のうち留学生を除く3人が教員採用試験を受験し、2人が徳島県と神戸市の教員採用試験に合格した。もう1人大阪府の2次試験まで進んだ。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育に関しては一方的な講義という授業をすることなく、学生との双方向的な授業を展開するよう心がける。具体的には、学生の発言を促し、また学生の意見も聞きながら授業を展開する。また演習等を利用し、学内だけではなく学外での学習活動を積極的に進めるようにする。

また学生生活支援に関しては、学生個々の生活状態や学習状態に配慮し、安心して学生生活が過ごせるように指導する。

2. 点検・評価

学部ゼミ生1人と大学院学生4人、それぞれが無事に卒業論文と修士論文を仕上げることができた。また大学院ゼミの留学生がソントクラブの奨学金を獲得することができた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

現在研究を進めつつある写し霊場の調査研究をさらに進展させる。具体的には源内の写し霊場の全数を調査し、領域ごとに調査結果をまとめていくことにする。徳島県内に存在する写し霊場の調査は、まだ数か所の霊場の調査が残されているのでそれを完了させることとする。また、従来から研究を続けていた、近代化過程における人口構造の変動についても研究を進める。

2. 点検・評価

研究を続けている写し霊場の調査は、県下全域の写し霊場の調査の完了を目標にしていたが、完了できなかった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

学内の各種委員会の委員としての活動を通して、大学運営に寄与する。

2. 点検・評価

人文・社会系教育部の副部長として活動するとともに教育研究評議会の委員として活動した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

社会との連携に関しては、地域の審議会や委員会等への委員の就任を要請された場合、積極的に参加し地域への協力と連携を行う。

附属学校との連携に関しては、教育課題探究で付属学校・園からの要請があれば積極的に応じることとする。

国際交流に関しては、留学生が安心して研究できるように環境整備に努めるとともに、生活の支援にも細心の注意を払うこととする。

2. 点検・評価

徳島労働審議会の会長、鳴門市情報公開審査会の会長などを務め、地域社会に貢献した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

なし。